

エイトが著効した術後疼痛の一例



御苑アンジェリカクリニック
院長 神藤 慧玲先生



エイトは交番磁界により疼痛の緩和効果を認める治療機器であり、線維筋痛症を始め慢性疼痛治療の新しい選択肢として導入され始めている。
今回、当院では原因不明の亜急性術後痛に対しエイト治療の効果を認めたため、報告する

【症例】

60歳女性 2P2G

【現病歴】

2017年（54歳時）前十字靱帯損傷

2018年（55歳時）より当院にて更年期障害のため通院開始、漢方療法・ヒト胎盤抽出物 筋肉内注射にて症状の軽快を認め、以後は断続的に有症時に受診されていた。

近年は両側手指PIP関節の痛み・腫脹・変形に対して他院にて整形外科的疾患およびリウマチは除外され、当院で実施していたヒト胎盤抽出物筋肉内注射が奏功していたため通院されていた。

2023.6 過去に受傷され、保存的に経過観察されていた右前十字靱帯損傷に対し、他院（大学病院）整形外科にて再建術実施

術後経過良好で、リハビリテーションも開始となったが、術後10日後より右下腿前部に痛みが出現、整形外科では診察上異常所見・検査異常認められず、ロキソニン60mg×3回/日開始の上リハビリテーションのため整形外科継続的に通院されていた。

2023.7.15 右下腿前部の疼痛が緩和せず、当院受診

【受診時身体所見】

NRS 8

右下腿全部に一部吸収されつつある皮下出血所見・軽度の浮腫あり。圧痛なし。比較的持続する自発痛あり。痛みがないときは異常感覚（ズキズキするような・ピリピリするような痛み）あり。運動障害は無いが、痛みがあるために歩行が緩徐になっている。

痛みの誘引は無い（運動に関連した痛みはない）

リハビリテーションは問題なく進んでおり、完全自重で歩行している。可動域制限なし。

術後亜急性の痛みが生じた時の整形外科受診では特に異常認められなかったとのことだった。

【治療経過】

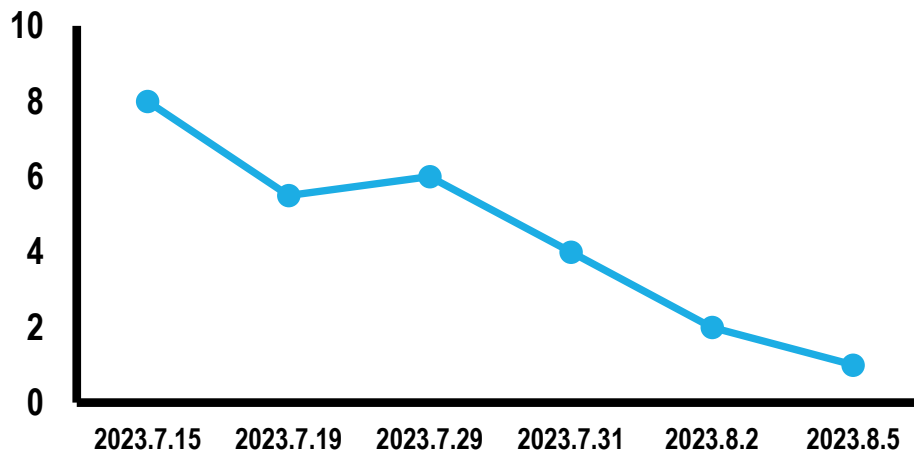
当院が近隣のため、通院によるエイト治療を推奨し、1週間に2回のペースで受診することとなった。

受診時皮下出血も認めたため、ツムラ治打撲一方エキス製剤2.5g × 3回/日処方方を併用とした。

下記に当院受診日およびNRSの経過を示す

エイトのパッドは、手術部位ではなく、同側下腿全面の疼痛部位を中心に三箇所、腹部に一箇所配置した。

受診時NRS時系列



エイト初回施行後、2回目受診時にはNRSは32%減少し、患者本人も日常生活で困らない程度となったため、治療継続に積極的になった。その後、経過中でNRSのほぼ持続的な減少を認め、6回施行後には痛みが消失したため治療終了となった。

【考察】

今回、手術後の亜急性期の疼痛に対してエイトが奏功した症例を経験した。患者は他の医療機関で処方された鎮痛補助薬による効果が得られず、整形外科での術後診察では特定の問題は指摘されなかった。また、リハビリテーションも順調に進行していたため、侵害受容性疼痛の可能性は低いと考えた。そのため、新たな鎮痛補助薬の投与などは行わず、低侵襲で安価であるエイト治療を提案し、患者の希望もあり治療開始となった。

術直後ではなく、慢性期でもない亜急性期の痛みは、慢性疼痛に移行するリスクがあり、その原因は末梢性および中枢性の神経機序が推測されている^{1,2}。

慢性疼痛は手術後のQOLを著しく低下させてしまうことから、亜急性期に痛みをできるだけ減らす必要があると考えられる。

手術後の経過では鎮痛補助薬のみで経過観察されてしまうことも多いため、その効果がない場合これまでは選択肢がなかったが、末梢・中枢レベルでの神経の痛み調節機構への効果が期待されるエイトを導入することにより、術後亜急性期の疼痛緩和が期待でき、慢性疼痛への移行を阻止することができる可能性がある。

エイトは疼痛に対し可能な限り毎日・1日2回実施することが推奨されているが、本症例では、1週間に2回の通院治療で効果が得られた。

亜急性期の術後痛についての報告はこれまで見当たらないが、治療の頻度が低くとも、亜急性期の術後痛について効果が得られる可能性が見出された。

今後は術後疼痛に対してさらなる症例の蓄積が必要と考えられる。

[1] Baliki MN, Geha PY, Fields HL, Apkarian AV. Predicting value of pain and analgesia: nucleus accumbens response to noxious stimuli changes in the presence of chronic pain. *Neuron* 2010;66:149-60.

[2] Forsythe ME, Dunbar MJ, Hennigar AW, Sullivan MJ, Gross M. Prospective relation between catastrophizing and residual pain following knee arthroplasty: two-year follow-up. *Pain Res Manag* 2008;13:335-41.

薬事情報

販売名：エイト

承認番号：30400BZX00015000

一般的名称：交番磁界治療器

医療機器クラス分類：クラスII

(管理医療機器 特定保守管理医療機器)



株式会社P・マインド

〒861-5525

熊本県熊本市北区徳王2-8-6

TEL 050-3160-8350

MAIL contact@p-mind.co.jp